

教育研究業績書

2018年11月21日

所属：生活環境学科

資格：助教

氏名：池田 仁美

| | |
|---------------------|--|
| 研究分野 | 研究内容のキーワード |
| 被服造形学, 被服文化学, 生活文化学 | ミシン裁縫教育, 婦女新聞, 服飾文化, 生活文化, テキスタイルデザイン, アパレルCAD |
| 学位 | 最終学歴 |
| 博士 (生活環境学) | 武庫川女子大学大学院 生活環境学研究所生活環境学専攻 単位取得退学 |

| 教育上の能力に関する事項 | | |
|--------------------------------------|--------------------|---|
| 事項 | 年月日 | 概要 |
| 1 教育方法の実践例 | | |
| 1. 浴衣の創作コンテスト「天神祭コレクション2018」の出品作品の指導 | 2018年4月～7月 | 武庫川女子大学アパレルコース2年「テキスタイルデザイン実習Ⅰ」の受講生全員に指導を行い、小紋柄の浴衣及び帯・小物の創作デザイン作品を「天神祭コレクション2018」意匠デザイン部門に32作品を応募した。7名の学生の作品が1次選考を通過し、2次選考の対象作品となった。そのうち1作品が優秀作品3位を受賞し、商品化が決定した。商品化した浴衣は高島屋大阪店の呉服売場で2019年5月から販売を開始する。 |
| 2. 高大連携事業 附属高校2年生対象 出張講義の講師 | 2018年2月6日 | 附属高校2年生を対象に『テキスタイルデザイン概論』の講義をおこなった。テキスタイルが商品となるまでの過程を追うと共に、市販のテキスタイルのデザインについて事例を紹介しながら解説をおこなった。また、日本の近現代の着物に見ることができる染めや織りの技術についても紹介した。 |
| 3. 担当授業「生活文化演習Ⅱ」（大学環境2年） | 2017年9月～現在 | 各自興味がある生活財を選び、できるだけ詳細に観察・調査・記述する。それを通じて分かったモノの特徴や背景について報告し、議論する。示唆された関連文献も参照し、調査と報告・議論を重ねながら、最終のレポートにまとめる。 |
| 4. 担当授業「CGスタイル画実習」（大学環境2年） | 2017年9月～現在 | 近年、アパレル業界においてもコンピュータは幅広く利用されている。授業では、コンピュータグラフィックス制作において、自由度の高さと表現力の多様さから最も広く普及しているAdobe IllustratorとAdobe Photoshopを使用する。アパレル業界での活用を前提とした教材を用いて段階的に技術を習得し、スタイル画およびハンガーイラストを描画する基礎技術と応用能力を習得できるよう指導をおこなった。 |
| 5. 担当授業「アパレルコンストラクション実習Ⅰ」（大学環境2年） | 2017年9月～現在 | 立体被服構成の基礎について平面製図より入り、着用目的にふさわしい材料の選択、デザインと地質との関係、パターン形状と衣服の立体形成、地直し、裁断、試着と補正、縫製、着装観察について、一連の衣服製作を通じて学ぶ。下衣はパンツと裏地付きセミタイトスカート、上衣は衿と袖（半袖）のついたブラウスの製作を通して理解を深める。優秀作品は、『学生作品集』に掲載した。 |
| 6. 浴衣の創作コンテスト「天神祭コレクション2017」の出品作品の指導 | 2017年4月から7月 | 武庫川女子大学アパレルコース2年「テキスタイルデザイン実習Ⅰ」の受講生全員に指導を行い、小紋柄の浴衣及び帯・小物の創作デザイン作品を「天神祭コレクション2017」意匠デザイン部門に56作品を応募した。8名の学生の作品が1次選考を通過し、Instagramによる人気投票の対象作品となった。そのうち1作品が優秀作品2位を受賞し、商品化が決定した。商品化した浴衣は高島屋大阪店の呉服売場で2018年5月から販売を開始し、同年の天神祭及び梅田ゆかた祭でのファッションショーでお披露目をおこなった。 |
| 7. 高大連携事業（高校3年生対象入学前教育）担当 | 2017年2月21日, 2月24日 | 日常生活に身近にあるモノに焦点をあて、調査をおこなう。文献や、使用状況の調査を通じて、モノの背景にある歴史的経緯を理解し、現在のモノの実態について検討する。調査は班ごとに調査対象とするモノを決めて進める。生活環境学科で学ぶために必要となる、モノの見方やとらえ方について新たな視座を得ると共に、生活の中の課題を見つける力を得ることを目的とする。（白井詩沙香氏と共担） |
| 8. 現代の学生が提案する浴衣～学生作品「街着YUKATA」の展示～ | 2017年10月18日～11月24日 | 2017年度 武庫川女子大学附属総合ミュージアム設置準備室秋季展 『近現代のきものと暮らし— 技術革新の成果と新しい担い手の誕生—』にて、テキスタイルデザイン実習Ⅰで指導をおこなった学生の浴衣デザイン作品13点を展示した。また、同展の図録P 46～48にも展示作品を掲載した。 |
| 9. 浴衣の創作コンテスト「天神祭コレクション2016」の出品作品の指導 | 2016年4月から2016年7月 | 武庫川女子大学アパレルコース2年「テキスタイルデザイン実習Ⅰ」の受講生全員及び3年生・4年生の有志に指導を行い、小紋柄の浴衣及び帯・小物の創作デザイン作品を応募した。4名の学生の作品が優秀作品として選出され |

教育上の能力に関する事項

| 事項 | 年月日 | 概要 |
|--|-------------------|--|
| 1 教育方法の実践例 | | |
| 10. 2015年 全国染織連合会主催 第20回全国きものデザインコンクールの応募作品の指導 | 2016年04月から2016年7月 | 、高島屋大阪店において展示され、来店者人気投票の対象作品となった。 武庫川女子大学アパレルコース「テキスタイルデザイン実習I」の受講生全員と、任意に参加を希望した学生に作品制作指導をおこない、34名の学生が作品を応募した。5000点を超える応募作品の中から、一般CGの部で1名が銀賞受賞、6名が入選した。 |
| 11. ダイワボウノイ株式会社へ譲渡したテキスタイル図案の作成指導 | 2016年04月から07月 | 「テキスタイルデザイン実習I」の授業の最終課題で、シリーズ展開するオリジナルのテキスタイル制作を指導した。元本学非常勤講師須川武博氏の仲介により、学生の制作したテキスタイル図案のうち、3名の学生の作品（4図案）は、ダイワボウノイ株式会社と譲渡契約を結んだ。 |
| 12. 2015年 全国染織連合会主催 第19回きものデザインコンクールの応募作品の指導 | 2015年4月から2015年7月 | 武庫川女子大学アパレルコース「テキスタイルデザイン実習I」の授業課題として指導をおこなった。同授業の受講生全員が作品を応募し、約6000点の応募作品の中から4人の学生の作品が一般CGの部で入選した。 |
| 13. 2014年 全国染織連合会主催 第18回きものデザインコンクールの応募作品の指導 | 2014年6月 | 武庫川女子大学アパレルコース テキスタイルデザイン実習Iの授業課題として指導をおこなった。5人の学生の作品が一般CGの部で入選した。 |
| 14. 「銚子1万匹いわし絵コンクール」の応募作品の指導 | 2014年4月から7月 | 「銚子1万匹いわし絵コンクール」は、銚子の市の魚いわしとアートを融合させ、街に彩りを添えるプロジェクトの一環で行われた。本学（武庫川女子大学）大学2年アパレルコースで開講したテキスタイルデザイン実習Iの授業で学んだテキスタイルデザインの手法の活用と応用例として課題に取り組んだ。 コンクールには全国から408点の作品の応募があり、1名の学生が、「銚子入梅いわし賞」（1点）、「銚子大漁いわし賞」（2点）に次ぐ、「せぐろいわし賞」（10点）を受賞した。 |
| 15. 担当授業「テキスタイルデザイン実習I」（大学環境2年） | 2014年～現在 | 4Dbox PLANSの使用方法を習得し先染め織物、プリント柄のテキスタイルデザインを行う。代表的な先染め織物作成方法を学ぶことで基礎的な知識を深め、さらにオリジナルのテキスタイルを考案してコンピュータ上で織り上げる。プリント柄は、図案の特徴を理解し、各図案の作成に適した操作方法を習得する。いずれも、デザインしたテキスタイルは製品写真にマッピングし、製品イメージを明確にする。プリント柄の図案は布にプリントし、縫製してオリジナルの作品を制作する。実際に商品として手に取ることにより、商品に求められるデザインについて考察する。優秀作品は、『学生作品集』に掲載した。 |
| 16. 2014「げんべい」ビーチサンダルデザインコンテスト in 西宮阪急—武庫川女子大学×げんべい商店 コラボレーション企画—出品作品の指導 | 2013年9月から2014年3月 | 西宮阪急百貨店より依頼を受け、学生のビーチサンダルデザインコンテストの応募作品の製作指導をおこなった。指導は、武庫川女子大学の「ファッションコンピュータ実習」の受講生全員におこない、全作品を西宮阪急百貨店に展示して、来店者による人気投票をおこなった。投票の結果、上位3名の作品が商品化され、2014年3月より、2014年夏物として西宮阪急で販売された。 |
| 17. 担当授業「アパレルCAD実習」（短大造形2年） | 2009年～現在 | アパレルCADシステムの1つである『CREACOMPO (CCLite Academic)』（東レACS株式会社）を使用した実習を通して、衣服デザインに対応するパターンメイキングを行い、衣服デザインとパターンの対応関係を把握する。また、グレーディング（サイズ展開）、マーキングの行程をコンピュータ上で繰り返し試行し、より効率的なパターン作成方法を考える。アパレルCADシステムは、2013年度まではPADsystemを使用していた。 |
| 18. 担当授業「ファッションコンピュータ実習」（短大造形1年） | 2008年4月～2017年3月 | IllustratorとPhotoshopを使用し、各ソフトの基本的な操作法を習得する。いずれもファッションに関連した素材を教材に用いて授業を展開し、段階的に操作技術を習得する。ファッション業界におけるCGの活用方法について理解し、応用能力を身につける。コラージュによるファッショングラフィック、スタイル画の着色、カラーパリエーションマップ、ファッションアイテムのコーディネートマップ等を授業課題とする。優秀作品は、『学生作品集』に掲載した。 |
| 19. 担当授業「CG基礎実習」（大学環境1年・短大造形1年） | 2008年4月～2009年3月 | コンピュータグラフィックス（CG）を利用するにあたり、基本となるソフトPhotoshopとIllustratorの使い方を習得しながら、グラフィックデザインの手法を学びつつ、デザインにおけるプレゼンテーションツールの作成に必要な知識と技能を学ぶ。本科目は、高校教科家庭科を教授するに足る基礎的知識及び技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。 |
| 20. 担当授業「アパレルコンストラクション実習」（大学環境2年） | 2008年、2014年 | 立体被服構成の基礎について平面製図より入り、着用目的にふさわしい材料の選択、デザインと地質との関係、パターン形状と衣服の立体形成、地直し、裁断、試着と補正、縫製、着装観察について、一連の衣服製作を通じ |

| 教育上の能力に関する事項 | | |
|--|-------------|---|
| 事項 | 年月日 | 概要 |
| 1 教育方法の実践例 | | |
| 21. 担当授業「テキスタイルコンピュータ実習」(短大造形学科2年) | 2007年4月～現在 | て学ぶ。下衣はキュロットスカートと上衣は衿と袖のついたブラウスの製作を通して理解を深める。 テキスタイルデザインソフト(4Dbox PLANS)を使用してデザインを行い、テキスタイルに要求されるデザインの特性について学ぶ。ファッション業界の現場で即戦力となりうる人材を育成する。 4Dbox PLANSを自在に操作することの出来る技能を身につける。先染め織物の糸を考案し、織り方を工夫して設計をする。プリント染色の図案を描くことが出来、生地柄を作り出す。ニットの編み図を入力し、模様編みシミュレーションをする。作品のプレゼンテーションボードを作成し、テキスタイルの特徴や商品化イメージを明確に伝える。優秀作品は、『学生作品集』に掲載した。 |
| 22. 担当授業「アパレルコンピュータ実習」(大学環境3年) | 2007年4月～現在 | アパレルCADシステムの1つである『CREACOMPO (CCLite Academic)』(東レACS株式会社)を使用した実習を行う。基本アイテムのパターンメイキングを中心に、段階的に機能操作を理解し、パターンの展開、工業用フルパターン作成、グレーディング展開、マーキングまでを行う能力を身につける。前半は、オペレーションに従った正確な操作技術を習得し、後半は、自ら作業計画を立て、課題に取り組む。正確で効率的な作業計画を立て、実践することにより、問題解決能力、論理的思考力の向上が期待でき、生産管理者の立場に応用できる力を得ることができる。 |
| 2 作成した教科書、教材 | | |
| 1. [テキストと教材]『テキスタイルデザイン ～4D-boxの活用～』 | 2018年9月改訂増補 | 使用アプリケーションのアップデートに対応するために改訂をおこなった。また、追加された機能を活用する内容を追加した。 |
| 2. [テキストと教材]『ファッションコンピュータ実習テキスト』 | 2017年9月改訂増補 | 使用アプリケーションのアップデートに対応するために改訂をおこなった。また、追加された機能を活用する内容を追加した。 |
| 3. [テキストと教材]『ファッションコンピュータ実習テキスト』 | 2016年9月改訂増補 | 学生の感性を活かした作品作りを目指して着色教材のスタイル画を描き下ろした。また、テキストは新教材に対応する内容に改訂し、新たなコンピュータグラフィック表現が可能となるように補填した。 |
| 4. [テキストと教材]『テキスタイルデザイン ～コンピュータグラフィックの活用～』 | 2016年改訂増補 | 従来の4D-boxの使用を主とした内容から、さらにPhotoshopやIllustratorによるテキスタイルデザインの手法を加え、コンピュータグラフィックによるデザインをテキスタイルに応用する方法を実践的に学べる内容に改訂増補した。テキストに対応した教材も作成した。 |
| 5. [テキストと教材]『ファッションコンピュータ実習テキスト』 | 2014年9月 | アパレル業界において、実践的にPhotoshop及びIllustratorを活用するための指導カリキュラムの構築及びテキストの作成。より少ない操作で応用操作に繋げることのできる方法を考案し、テキストにまとめた。全80頁。また、テキストに対応した教材ファイルを作成した。 |
| 6. [テキストと教材]『テキスタイルデザイン ～4D-boxの活用～』 | 2012年改訂 | テキスタイルデザインソフト4D-boxを用いて行うことのできる、先染め・プリント柄・ニット柄のデザイン方法を段階的に効率よく学習できるカリキュラムを確立した。個人学習が可能なレベルに詳細にまとめたテキスト及び教材データを作成した。旧バージョンからの大幅なバージョンアップに対応し、追加された新しい機能を用いたテキスタイルデザイン方法を提案している。使用できる機能を網羅し、実践的に応用できる内容になっている。全75頁。また、テキストに対応した教材ファイルを作成した。 |
| 7. [テキストと教材]『テキスタイルデザイン ～4D-boxの活用～』 | 2008年 | テキスタイルデザインソフト4D-boxを用いて行うことのできる、先染め・プリント柄・ニット柄のデザイン方法を段階的に効率よく学習できるカリキュラムを確立した。個人学習が可能なレベルに詳細にまとめたテキスト及び教材データを作成した。(全40頁) また、テキストに対応した教材ファイルを作成した。 |
| 3 実務の経験を有する者についての特記事項 | | |
| 1. 武庫川女子大学衣料管理士会主催講習会 講師 | 2008年3月15日 | 講習会「布にオリジナルのデザインプリントを施そう」で講師を務める。 内容: テキスタイルデザインソフト(4D-box)を使用してデザインしたオリジナルのテキスタイル布にプリントアウトする |
| 2. 「家族ふれあいラリー」ポスター・ステッカー制作 | 2006年 | 財団法人兵庫県青少年本部主催事業「家族ふれあいラリー」 |
| 3. 「家族ふれあいラリー」ポスター・ステッカー制作 | 2004年 | 財団法人兵庫県青少年本部主催事業「家族ふれあいラリー」 |
| 4 その他 | | |
| 1. 日本家政学会関西支部 若手優秀発表賞 | 2016年10月30日 | 「大正期から昭和前期における『婦女新聞』の広告及び記事に見る裁縫指導について」 ○池田仁美、村田裕子、原田陽子、横川公子 2016年10月30日 平成28年度関西支部第38回研究発表会(|

| 教育上の能力に関する事項 | | |
|---------------------------|----------|--|
| 事項 | 年月日 | 概要 |
| 4 その他 | | |
| | | 大阪樟蔭女子大学) |
| 職務上の実績に関する事項 | | |
| 事項 | 年月日 | 概要 |
| 1 資格、免許 | | |
| 1. 1級衣料管理士 (テキスタイルアドバイザー) | 2002年 | |
| 2. 繊維製品品質管理士 | 2001年 | |
| 3. 2級カラーコーディネーター | | |
| 2 特許等 | | |
| 3 実務の経験を有する者についての特記事項 | | |
| 4 その他 | | |
| 1. 2018年度秋期展覧会 実行委員会 | 2018年度 | 2018年度 武庫川女子大学附属総合ミュージアム設置準備室秋期展「粗品？粗品！時代の空気感を映す」の開催に向けて、展示内容の検討及び展示物の選定に携わる。図録では、論考「粗品に含まれる”粗”の様相」を執筆した。 |
| 2. 2017年度秋期展覧会 実行委員会 | 2017年度 | 2017年度 武庫川女子大学附属総合ミュージアム設置準備室秋期展『近現代のきものと暮らし— 技術革新の成果と新しい担い手の誕生—』開催に向けて、展示内容の検討及び展示物の選定に携わる。また、担当授業「テキスタイルデザイン実習Ⅰ」を履修する学生がデザインした浴衣の作品展示及び、きものドレスの展示をおこなった。図録の論考および展示解説を執筆した。 |
| 3. 教育・研究誌「生活環境学教育」編集事務局委員 | 2016年～現在 | 事務局編集委員として、発行までのスケジューリングや原稿の収集作業、校正などの事務作業をおこなった。 |
| 4. 2015年度秋期展覧会 実行委員会 | 2015年度 | 武庫川女子大学附属総合ミュージアム設置準備室 2015年度秋期展覧会生活文化玉手箱シリーズ⑥「編の造形への挑戦 山口比呂の作品と手芸教育の現場から」(平成27年10月21日～11月25日)開催に向けて、展示内容の検討及び展示物の選定に携わる。図録のコラムを執筆した。 |

| 研究業績等に関する事項 | | | | |
|--|---------|-------------|---|---|
| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
| 1 著書 | | | | |
| 1. 『ミュージアムサロンの春秋』 | 共 | 2014年10月20日 | 武庫川女子大学附属総合ミュージアム設置準備室発行, P14 | コラム「インタビュー—大学院生の目 粗品について」 2013年～2014年にかけて、中田家コレクションの調査に付随して開催されたミュージアムサロンでインタビューを務めた。本誌は、ミュージアムサロンの成果をまとめたもので、インタビューの視点から粗品に関するコラムを執筆した。 |
| 2. 『関西文化研究叢書別巻 洋裁文化形成に関わった人々とその足跡—インタビュー集その4—』 | 共 | 2013年3月29日 | 横川公子編 武庫川女子大学関西文化研究センター発行, pp. 33-35 | コラム「明治後期から大正期におけるシンガーミシンの附属具について」を執筆した。 |
| 2 学位論文 | | | | |
| 1. 明治末期から大正期におけるミシン裁縫教育—シンガーミシン裁縫女学院の教育活動と実物教材の検討— | 単 | 2016年3月20日 | 博士学位論文 武庫川女子大学大学院 生活環境学研究科生活環境学専攻 第136号 | 明治末期にシンガーミシン会社の販売促進活動と共に展開したミシン裁縫教育機関であるシンガーミシン裁縫女学院における洋裁教育について、実物教材資料と文献資料を主に用いて調査研究をおこなった。その結果、洋裁教育の黎明期に相当する時期において、ミシン裁縫教育は型紙製図を中心とした洋裁学を中心に展開し、現在にも続く東京家政大学やお茶の水女子大の前身の教育機関における指導内容と密接な関係があることをつきとめた。 |
| 3 学術論文 | | | | |
| 1. 昭和初期におけるミシンの活用方法—シンガークラフト— | 単 | 2018年11月1日 | 生活環境学研究No. 6, 武庫川女子大学pp. 32-35 | 池田仁美 シンガークラフトは、シンガーミシンに専用の附属具を付け、器具に巻き付けた糸を土台布に縫い付けることで新たなテキスタイル表現を可能にした手芸である。昭和八年頃に突如登場したが、広く認知に至らなかった手芸に着目し、現存する実物資料及び文献資料から調査を進めた。 |
| 2. 3D バーチャルフィッティングソフトを用いたアパレル CAD 教育の検討 | 共 | 2018年11月1日 | 生活環境学研究No. 6, 武庫川女子大学, pp. 36-41 | 末弘 由佳理, 池田仁美, 中西直美, 坂田彩美 教員が提示したデザイン画を元に、アパレルCAD実習の学生が作図したスカートの型紙から回答内容の分布を分析すると共に、3Dバーチャルフィッティング |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・ 共著書別 | 発行又は 発表の年月 | 発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称 | 概要 |
|--|-------------|---------------|--|--|
| 3 学術論文 | | | | |
| 3. アパレルCADの授業カリキュラムの構築と実践 | 共 | 2017年10月1日 | 生活環境学研究No.5, 武庫川女子大学, pp. 70-77, 2017 | ソフトを使用して縫製形状の比較をおこなった。 末弘由佳理、池田仁美 本学アパレルコース（大学・短大）で開講しているアパレルCADの授業では、「クレアコンボ」を使用した授業を展開している。本学の学生の履修課程に沿った独自の授業カリキュラムを構築し、オリジナルテキストを用いた授業を行なった。学生アンケートから、学生の理解度を把握すると共にカリキュラムの適性について考察した。 |
| 4. テキスタイルデザインの産学連携の取り組みについて | 共 | 2017年10月1日 | 生活環境学研究No.5, 武庫川女子大学, pp. 82-85, 2017 | 池田仁美, 須川武博 武庫川女子大学生活環境学科2年アパレルコース開講のテキスタイルデザイン実習Ⅰにて取り組んだ産学連携事業の報告。学生のデザインしたテキスタイルのうち、市場での販売が見込めるデザイン意匠図案を企業が買い取ることで、市場での販路を確保した。2016年度は4デザインが買い取りの対象となった。 |
| 5. 明治末期から大正期におけるミシン裁縫教育 -シンガーミシン裁縫女学院の教育活動と実物教材の検討- | 単 | 2016年10月1日 | 生活環境学研究No.4, 武庫川女子大学 pp. 56-61 | 池田仁美 同題博士学位論文（2016）の研究結果の要旨をまとめた。明治末期にシンガーミシン会社の販売促進活動と共に展開したミシン裁縫教育機関であるシンガーミシン裁縫女学院における洋裁教育について、実物教材資料と文献資料を主に用いて調査研究をおこなった。 |
| 6. アパレルCADによる子供原型の半自動作図の提案-婦人原型から子供原型への展開-（査読付） | 共 | 2016年10月1日 | 生活環境学研究No.4, 武庫川女子大学, pp. 12-21 | 末弘由佳理, 池田仁美 本研究では、アパレルCADシステムに搭載される自動作図の婦人原型から部分的に修正を加えて子供原型に展開する作図法「半自動作図」を考案した。自動作図による婦人原型のバストサイズを作図したい子供原型サイズのバストから調整したものを基にして、修正展開することで近似的な子供原型を作成することができた。 |
| 7. メディアに見るシンガーミシン裁縫女学院の沿革とミシン裁縫教育（査読付） | 単 | 2015年8月20日 | 意匠学会誌「デザイン理論」66号 pp. 3-16 | 池田仁美 新聞・雑誌のメディア資料を用い、シンガーミシン裁縫女学院の設立から衰退までの活動状況を明らかにした。 |
| 8. 2014「げんべい」ビーチサンダルデザインコンテストin西宮阪急-武庫川女子大学×げんべい商店 コラボレーション企画- | 共 | 2014年9月1日 | 生活環境学研究No.2, 武庫川女子大学, pp. 42-45 | 末弘由佳理、池田仁美 西宮阪急と本学（武庫川女子大学）のコラボレーション企画である「ビーチサンダルデザインコンテスト」の取り組みに関する報告 |
| 9. 田中千代洋裁研究所における洋裁教育 -授業ノートからの検討- | 単 | 2014年3月31日 | 武庫川女子大学資料館紀要8号, 武庫川女子大学資料館（ギャラリー）, pp. 60-72 | 池田仁美 田中千代洋裁研究所に1940年に入学した女性が遺した授業資料（スケッチブック2冊・洋裁ノート4冊・野線ノート整理と分析を行い、当時の洋裁教育の内容をとらえるとともに、武庫川女子大学資料館の資料としての価値付けをおこなった。 |
| 10. メディアに見るシンガーミシン裁縫女学院とその周辺 | 単 | 2014年02月 | 意匠学会誌『デザイン理論』63号 pp. 108-109 | 池田仁美 新聞・雑誌のメディア資料を用い、シンガーミシン裁縫女学院の設立から衰退までの活動状況を明らかにした。 |
| 11. 初期のシンガーミシン裁縫女学院における洋服型紙（査読付） | 共 | 2013年9月1日 | 生活環境学研究No.1, 武庫川女子大学, pp. 22-29 | 池田仁美、横川公子 明治期のシンガーミシン裁縫女学院におけるミシン裁縫教育について教材資料による考察 |
| 12. 初期のシンガーミシン裁縫女学院の型紙教育 -明治41年の実物型紙による検討- | 単 | 2013年 | 意匠学会誌『デザイン理論』67号 pp. 100-101 | 池田仁美 明治41年にシンガーミシン裁縫女学院に入学した生徒の遺した教材により、同学院における裁縫教育の洋裁教育史上の位置づけを明らかにした。 |
| 13. 雑誌『婦人画報』にみる口元へのこだわり（査読付） | 共 | 2009年 | 日本顔学会誌, 第9巻, 1号, pp. 101-109 | 玉置育子、横川公子、池田仁美 雑誌「婦人画報」の美容相談コーナーの中から口元に関する相談を取り上げ、大正時代から昭和にかけて女性の口元の悩みについて考察した。 |
| 14. フレアースカートの揺動性について -布地特性の影響- | 共 | 2003年3月31日 | 武庫川女子大紀要自然科学編, 第51巻, pp. 13-18 | 野田仁美、岡本佳美、山川勝 歩行時のスカートの揺動性について、脚の動きに伴うスカートの形状と布地特性の関係について検証し、重回帰式による形状予測式を導き出した。 |
| 15. 衣服デザインに及ぼす錯視効果に関する研究 ツェルナー錯視の活用 | 共 | 2002年 | 武庫川女子大学紀要自然科学編 50巻 pp. 43-51 | 山川勝、三好江梨子、野田仁美 衣服の目的・効果の一つとして、着衣者の体つきを美しく見せるという事があげられる。平行線に斜線が交差すると、平行線が平行に見えず、複数の交差斜線の傾きと逆の傾きに集束するように見えるツェルナーの錯視を衣服デザインに取り入れることによって、ずん胴体型の人のウエストを少しでも細く見せることが可能かどうかを検証しようとした。 |
| その他 | | | | |
| 1. 学会ゲストスピーカー | | | | |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|---|---------|-------------|--|---|
| 1. 学会ゲストスピーカー | | | | |
| 2. 学会発表 | | | | |
| 1. 『婦女新聞』に見る大正期から昭和戦前・戦中期の裁縫文化とその背景 | 共 | 2018年5月27日 | 日本生活学会第45回研究発表大会(慶應義塾大学), ポスター発表、日本生活学会公開シンポジウム第45回研究発表会発表梗概集, pp112-113 | 池田仁美, 村田裕子, 横川公子 大正期から昭和初期にかけて『婦女新聞』には短期間に集中して開催される裁縫や手芸の講習会の案内記事や広告が掲載された。これらの記事や広告を時代を追って調べていくと、大正9年頃を境に増加していく。講習会の開催状況の動向から、『婦女新聞』の読者層の女性の生活において裁縫文化が担う歴史的評価を明らかにすることを試みた。 |
| 2. The proposal of a new style of Kimono Dress Costume (3) Image of patterns and colors in textile | 共 | 2017年8月7日 | ARAHE[Asian Regional Association for Home Economics] 19th Biennial International Congress (National Olympic Memorial Youth Center, TOKYO), Poster Presentation, Abstracts P76 [第19回アジア地区家政学会大会] | Hiroko MURATA, Hitomi IKEDA, Masako KOBAYASHI, Miki SYOSE, Kimiko YOKOGAWA |
| 3. The proposal of a new style of Kimono Dress Costume (1) On the possibility of wearing as a uniform | 共 | 2017年8月7日 | ARAHE[Asian Regional Association for Home Economics] 19th Biennial International Congress (National Olympic Memorial Youth Center, TOKYO), Poster Presentation, Abstracts P76 [第19回アジア地区家政学会大会] | Hitomi IKEDA, Hiroko MURATA, Masako KOBAYASHI, Miki SYOSE, Kimiko YOKOGAWA |
| 4. The proposal of a new style of Kimono Dress Costume (2) Shape and sewing | 共 | 2017年8月07日 | ARAHE[Asian Regional Association for Home Economics] 19th Biennial International Congress (National Olympic Memorial Youth Center, TOKYO), Poster Presentation, Abstracts P77 [第19回アジア地区家政学会大会] | Masako KOBAYASHI, Hitomi IKEDA, Hiroko MURATA, Miki SYOSE, Kimiko YOKOGAWA |
| 5. 『婦女新聞』子供洋服号にみる洋裁の意義 | 共 | 2017年5月27日 | 日本家政学会第69回大会(奈良女子大学)口頭発表, 発表要旨集P120 | 村田裕子, 池田仁美, 横川公子 大正11年7月30日発行の『婦女新聞』子供洋服号に掲載された内容から, 身体の採寸寸法や型紙製図の特徴を取り上げ, 現代の洋裁教育との相違について検討をおこなった。 |
| 6. 『婦女新聞』の記事及び広告に見る裁縫講習会について | 共 | 2017年5月22日 | 日本生活学会, 第44回研究大会(亜細亜大学), 口頭発表, 日本生活学会公開シンポジウム第44回研究発表会発表梗概集, pp32-33 | 池田仁美, 村田裕子, 小林政子, 原田陽子, 横川公子 『婦女新聞』に大正期から昭和17年までの期間に掲載された, 夏期や冬期の長期休暇に開催した裁縫講習会の案内記事や広告から, 当時の裁縫教育の実態について調査をおこなった。大正11年から大正12年をピークに推移する講習会の開催状況と, 指導内容の変遷について明らかにすることができた。 |
| 7. 『婦女新聞 子供洋服号』にみる洋裁 | 共 | 2017年05月22日 | 日本生活学会, 第44回研究大会(亜細亜大学), 口頭発表, 日本生活学会公開シンポジウム第44回研究発表会発表梗概集, pp34-35 | 村田裕子, 池田仁美, 小林政子, 原田陽子, 横川公子 『婦女新聞 子供洋服号』は, 大正11年7月30日に発行され, 通常版の『婦女新聞』の全てのページを子供洋服裁縫の特集記事に置き換えて特別編集号である。子供の洋服着用が徐々に受容されつつはあったが, 少数派であった時代に子供洋服号が発行された背景と, 読者層が求めた洋裁の情報と, 婦女新聞が提供した情報の相互の関係について考察をおこなった。 |
| 8. アパレルCADによる子供原型の半自動作図の提案—婦人原型から子供原型への展開— | 共 | 2016年10月30日 | 平成28年度家政学会関西支部第38回研究発表会(大阪樟蔭女子大学), 口頭発表, 研究発表要旨集p. 10 | 末弘由佳理, 池田仁美 同題, 生活環境学研究No. 4, 武庫川女子大学, pp. 12-21の研究発表の発表 |
| 9. 大正期から昭和前期における『婦女新聞』の広告及び記事に見る裁縫指導について | 共 | 2016年10月30日 | 平成28年度家政学会関西支部第38回研究発表会(大阪樟蔭女子大学), 口頭発表, 研究発表要旨集p. 8 | 【日本家政学会関西支部 若手優秀発表賞授章】 池田仁美, 村田裕子, 原田陽子, 横川公子 『婦女新聞』を主な調査対象とし, 洋服裁縫や衣生活に関連した記事及び広告から, 大正から昭和前期の記述を通時的に調査をすることにより, 『婦女新聞』が紙上での裁縫教育機会となったことを明らかにした。 |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・ 共著書別 | 発行又は 発表の年月 | 発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称 | 概要 |
|---|-------------|---------------|---|---|
| 2. 学会発表 | | | | |
| 10. 初期のシンガーマシン裁縫女学院の型紙教育 一明治41年の実物型紙による検討 | 単 | 2015年7月26日 | 第57回意匠学会大会口頭発表(武庫川女子大学), 第57回意匠学会大会発表要旨集p. 17 | かにする。 池田仁美 明治41年にシンガーマシン裁縫女学院に入学した生徒の遺した教材により、同学院における裁縫教育の洋裁教育史上の位置づけを明らかにした。 |
| 11. メディアに見る初期のシンガーマシン裁縫女学院とその周辺 | 単 | 2013年7月21日 | 第55回意匠学会大会口頭発表、福井工業大学、発表要旨集p14 | 池田仁美 新聞・雑誌のメディア資料を用い、シンガーマシン裁縫女学院の設立から衰退までの活動状況を明らかにした。 |
| 12. 明治末から大正期におけるシンガーマシン裁縫女学院とその周辺—新聞記事と婦人画報の広告を通して— | 共 | 2012年10月13日 | 第34回日本家政学会関西支部研究発表会口頭発表、奈良女子大学研究発表要旨集p. 6 | 池田仁美、横川公子 読売新聞および朝日新聞を主たる資料とし、シンガーマシン裁縫女学院の裁縫指導教程に関する調査をおこなった結果得られた知見を報告した。 |
| 13. 初期のシンガーマシン裁縫女学院における洋服型紙と他の裁縫書による型紙との比較 | 共 | 2011年6月25日 | 2011年度日本繊維製品消費科学会、武庫川女子大学、2011年年次大会・研究発表要旨p. 73 | 池田仁美、横川公子 シンガーマシン裁縫女学院における洋裁教育の内容について、同時期の他の洋服裁縫書の型紙製図と比較して、その特徴を考察した。 |
| 14. 初期のシンガーマシン裁縫女学院における洋服型紙 | 共 | 2009年10月18日 | 第31回日本家政学会関西支部研究発表会口頭発表、京都女子大学研究発表要旨集p. 22 | 池田仁美、横川公子 明治39(1906)年にシンガーマシン裁縫女学院に在学していた生徒の遺品に含まれる教材資料の整理状況に関する報告と、型紙製図から得られた知見について発表した。 |
| 15. 『婦人画報』にみる口元へのこだわり | 共 | 2008年10月12日 | 第13回日本顔学会大会口頭発表、東京大学 | 玉置育子、野田仁美、横川公子 雑誌「婦人画報」の美容相談コーナーの中から口元に関する相談を取り上げ、大正時代から昭和にかけて女性の口元の悩みについて考察した。 |
| 16. 『婦人画報』に見る襟白粉と額化粧について | 共 | 2008年10月12日 | 第13回日本顔学会大会口頭発表、東京大学 | 野田仁美、玉置育子、横川公子 首筋の襟白粉と額化粧は昔から着化粧として重要視されてきた。大正・昭和時代の一般女性が購読していた『婦人画報』の「化粧問答」から襟白粉と額化粧の実態を検証した結果、大正2年から昭和8年にかけて襟白粉と額化粧に関する悩みはほとんど登場しないことがわかった。 |
| 3. 総説 | | | | |
| 4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績 | | | | |
| 1. カクテルドレス【ガーデンパーティー】 | 単 | 2018年9月14日 | NDK（日本デザイン協会）60周年記念式典・ファッションショー（ホテル阪急インターナショナル） | インクジェットプリントの特性を生かし、型紙形状に合わせてテキスタイルデザインをおこなった。既存のテキスタイルでは表現できない立体的な表現によるオリジナルデザインのドレスを制作し、NDKファッションショーで披露した。 |
| 2. 創作きもの（きものドレス5点、創作小袖3点） | 共 | 2018年3月18日 | 「和は心の宝石」ファッションショー（湊川神社神能殿） | 染色作家庄瀬みきがプロフェューサーをつとめる、能とコントラバスカルテット及び創作きものファッションショーにおいて、染色作家の庄瀬みきと、本学特任教授横川公子が代表を務めるプロジェクトチーム『スタジオGY』（横川公子、池田仁美、村田裕子、小林政子）の制作による創作きもののお披露目をおこなった。創作着物は、既に発表しているKIMONO DRESS（陽光）に加え、新たなKIMONO DRESS「蒼春」、「朱夏」、「白秋」、「玄冬」を制作した。また、小袖は、「星月夜」、「風薫る」、「薄霞」の3点を制作した。構想：スタジオGY、図案：庄瀬みき、インクジェット染色のデジタルデータ作成担当：池田、縫製担当：小林、モデル：池田他 舞台プロデューサー：庄瀬みき |
| 3. The proposal of new style of KIMONO Dress Uniform by inkjet printing | 共 | 2017年8月7日～9日 | Exhibition of Costume (International Association of Costume), National Olympic Memorial Youth Center, TOKYO, abstracts P5 [国際服飾学会 衣装出展] | Syose Miki & Studio GY (Kimiko Yokogawa, Hitomi Ikeda, Masako Kobayashi, Hiroko Murata) 国際服飾学会にて、「きものドレス」の現物を展示した。 |
| 4. 紫陽花を纏う | 単 | 2016年10月02日 | 第20回 全国きものデザインコンクール 出品作品 | 【一般CGの部 銀賞受賞】 あじさいをモチーフにした長着のデザインをおこなった。自生するあじさいの力強さと、色味を変えながら風景を彩る姿をCGで描いた作品。 |
| 5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等 | | | | |
| 1. 黎明期のマシン裁縫教育 | 単 | 2018年11月18日 | 道具学会News66号、道具学会・事務局, pp. 14-15 | 明治末期に始まったマシン裁縫の教育施設であるシンガーマシン裁縫女学院における指導内容と立場に関するミニレポート |
| 2. 粗品に含まれる“粗”の様相 | 単 | 2018年10月17日 | 横川公子編、2018年度武庫川女子大学附属総合ミュージアム設置準備室秋季展「粗品？粗 | 池田仁美 粗品が粗品であるために必要な事象について、粗品に求められる”もの”と”こと”に着目して通時的な調査および考察をおこなった。 |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|--|---------|-------------|---|---|
| 5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等 | | | | |
| 3. 3D バーチャルフィッティングソフトを用いたアパレル CAD 教育の検討 | 共 | 2018年09月6日 | 品！一時代の空気感を映すー」図録、武庫川女子大学附属総合ミュージアム設置準備室、論考P 43-45 平成30年度 短期大学教育改革ICT戦略会議、公益社団法人 私立大学情報教育協会主催、於アルカディア市ヶ谷（東京、私学会館） | 末弘由佳理，池田仁美，中西直美，坂田彩美 同題，生活環境学研究No. 6，2018の報告内容について口頭発表をおこなった。 |
| 4. 大正期の子供服の様相 一林愛作の家族写真を例にー | 単 | 2018年03月31日 | 武庫川女子大学生生活美学研究所甲子プロジェクト、武庫川女子大学生生活美学研究所甲子プロジェクト報告集2、pp.51-59、2018 | 池田仁美 林愛作が遺した家族写真には和装や洋装の子供達が写っており、着衣の形状と当時に流行した子供服の形状を比較した。その結果、外国文化にも親しんだ一家の子供服は時代の先端をいくデザインを取り入れていたことがわかった。 |
| 5. 新しい”きものドレス”の提案ー染色作家庄瀬みきとスタジオGYの協同による制作ー | 共 | 2018年02月16日 | 第二回武庫川女子大学研究成果の社会還元促進に関する発表会、武庫川女子大学教育研究社会連携推進室主催、P1-5、2018 | 池田仁美，村田裕子，小林政子，庄瀬みき，横川公子 国際的なイベントに関連したシーンでの着用を想定し、簡単に着ることが出来る着物の制作をした。制作コンセプトや制作意義，社会との連携の可能性について口頭発表およびポスターセッションをおこなうとともに、抄録を執筆した。 |
| 6. 昭和前期の婚礼衣装ー旧甲子園ホテルの婚礼写真資料を中心にー | 単 | 2017年3月31日 | 武庫川女子大学生生活美学研究所甲子プロジェクト、武庫川女子大学生生活美学研究所甲子プロジェクト報告集1、pp.35-42、2017 | 池田仁美 武庫川女子大学では、甲子園ホテル時代に撮影した写真の収集活動をおこなっており、甲子園会館を訪れた人々に協力を依頼して写真の提供を受け、整理・調査を進めている。これまでに収集した写真の中には婚礼写真も含まれており、旧甲子園ホテルにおけるハレの儀礼の様子を窺い知ることのできる貴重な資料である。本研究では、婚礼写真を主な資料として用い、新郎新婦の婚礼衣装及び参列者の服装から、儀礼で用いられた衣装の種類とその変遷について考察をおこなった。 |
| 7. アパレルCADを用いた半自動作図の提案 | 共 | 2017年2月15日 | 第一回武庫川女子大学研究成果の社会還元促進に関する発表会、武庫川女子大学教育研究社会連携推進室主催抄録pp.9-16 | 末弘由佳理，池田仁美 同題，生活環境学研究No.4，武庫川女子大学，pp.12-21の研究成果の口頭発表及びポスター発表と抄録の執筆 |
| 8. 現代の学生が提案する浴衣 学生作品「街着YUKATA」 | 単 | 2017年10月18日 | 2017年度 武庫川女子大学附属総合ミュージアム設置準備室秋季展 近現代のきものと暮らしー技術革新の成果と新しい担い手の誕生ー、武庫川女子大学附属総合ミュージアム設置準備室、図録p.46 | 池田仁美 現代の学生が提案する浴衣 学生作品「街着YUKATA」の展示解説及び図録解説 |
| 9. 学生による浴衣デザインの提案ー近現代の浴衣との比較ー | 単 | 2017年10月18日 | 横川公子編、2017年度 武庫川女子大学附属総合ミュージアム設置準備室秋季展 近現代のきものと暮らしー技術革新の成果と新しい担い手の誕生ー、武庫川女子大学附属総合ミュージアム設置準備室、論考pp.55-57 | 池田仁美 近現代の浴衣のデザインの変遷を探ると共に、現代の学生がデザインした浴衣の特徴を読みとった。現代の学生が想定する浴衣着用シーンと流行には、現代の和服に対する意識が特徴づけられた。 |
| 10. 『横川公子先生のお仕事-47年の研究生活-』 | 共 | 2015年3月15日 | 横川公子発行 | 編集/池田仁美、村田裕子、荒井三津子 横川公子先生の47年間研究活動を紹介する冊子の編集をおこなった |
| 11. 武庫川女子大学附属総合ミュージアム設置準備室 平成27年度秋期展覧会図録『生活文化玉手箱シリーズ6、編みの造形への挑戦 山口比呂の作品と手芸教育の現場から』 | 共 | 2015年 | 横川公子編、武庫川女子大学附属総合ミュージアム設置準備室発行、p.10 | 池田仁美 図録中のコラム「コンテストの作品制作によって得るもの」を執筆した。 |
| 12. 武庫川女子大学附属総合ミュージアム設置準備室 平成26年度秋期展覧会図録『生活文化玉手箱シリーズ5、きものに寄せられた物語』 | 共 | 2014年 | 横川公子編、武庫川女子大学出版部発行、p39 | 池田仁美 図録中の解説「阪神間山の手の婦人を描く」で、寺島紫明作「秋（婦人）」の着物の着こなしに関する解説を執筆した。 |
| 13. 釜山における食玩事情（調査報告） | 共 | 2007年3月 | 生活美学研究所生活デザイン小研究会報告書『生活デザイン研究』4 | 森田雅子、北村薫子、野田仁美、櫻谷かおり 釜山における食玩の販売状況に関する現地調査の報告書 |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|--|---------|-----------------------|------------------------------|---|
| 5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等 | | | | |
| 14. 濱田雅子 高梨暢雄 『ファッションを描くーIllustratorとPhoto shopでスタイル画ー』の編集協力 | | 2005年09月12日 | 号 pp.87-104 発行：東京堂出版 | 付録CD-ROM内のデータ作成に協力した |
| 6. 研究費の取得状況 | | | | |
| 1. 『婦女新聞』に見る大正期から昭和戦前・戦中期の裁縫文化に関する研究 | 共 | 2017年7月1日～2018年3月31日 | 日本生活学会 プロジェクト助成金あり 生活学 採択 | 代表：横川公子(武庫川女子大) 池田仁美(武庫川女子大)，村田裕子(大阪大谷大) 実用記事を書けるようになった大正期から昭和17年(終刊)までの平和と人間尊重という『婦女新聞』の理念と実用記事の思想との重層的傾向に着目する。それを通して、時代に応じて、『婦女新聞』が発信した生活改善等の記事によって、女性の生活モデルと裁縫文化が担う歴史的・社会的な役割や生活の理想、女子高等教育への要請との関係性をあぶりだす。 |
| 2. 『婦女新聞』に見る大正期から昭和戦前期の衣生活に関する研究 | 共 | 2016年7月1日～2017年3月1日まで | 日本生活学会 プロジェクト助成金あり 生活学 採択 | 代表：横川公子(武庫川女子大) 池田仁美(武庫川女子大)，村田裕子(大阪大谷大)，原田陽子(京都造形芸大) 『婦女新聞』を主な調査対象として、大正期から昭和戦前期の洋服裁縫の受容の実態を発掘し、時代に通底する女子の教育や生活のあり方を探る。女性の役割ともされる洋裁と洋装受容を把握するとともに、時代の要請との関係性を炙り出すことで、実態的な女子教育や女性観を展望する。 |

学会及び社会における活動等

| 年月日 | 事項 |
|---------------|---|
| 1. 2018年4月～現在 | 日本家政学会 関西支部地区幹事 繊維製品消費科学会 正会員 意匠学会 正会員 一般社団法人 NDK 日本デザイン協会 普通会員 日本生活学会 正会員 道具学会 正会員 日本家政学会 正会員、服飾史・服飾美学部会会員 日本衣料管理協会(衣料管理士会会員・繊維製品品質管理士TES会会員) |